

神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

第 172 号

(2007年2月)

平成19年6月18日発行

話題

2007年の麻しん及び成人麻しんの流行について

1 患者発生動向

本年は関東地方を中心に麻しん（はしか）が流行しています。麻しん（成人麻しんを除く）の流行状況は小児科定点（小児科診療を行っている指定届出医療機関）の報告から、成人麻しん（15歳以上）の流行状況は基幹定点（内科と小児科を持つ300床以上の病院）の報告から把握しています。このように麻しんと成人麻しんは異なった定点から報告されます。また、全数報告の疾患ではありませんので、発生動向調査で患者数をすべて把握することはできません。

麻しん、成人麻しんの定点あたり報告数の推移

神奈川県では、特に成人麻しんの定点あたり報告数が12週(3/19～)から増加をはじめ、15週(4/9～)で0.38人、16週(4/16～)で0.43人でした。また、20週(5/14～)は0.88人、21週(5/21～)は1.11人、22週(5/28～)では1.33人とさらに増加しています(図1)。

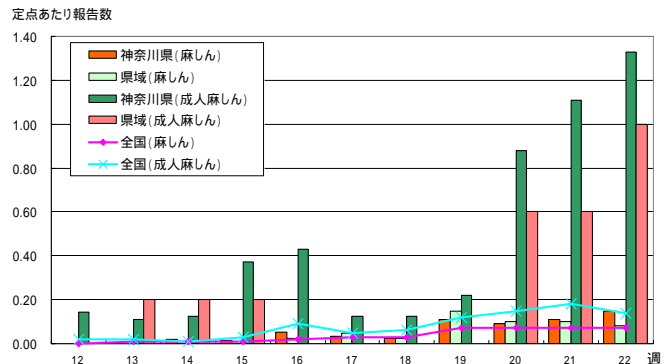


図1 2007年 麻しんおよび成人麻しんの定点あたり報告数の推移

麻しん、成人麻しんの年齢別患者報告数(1～22週累計 小児科定点、基幹定点報告より)

神奈川県の1週から22週までの麻しん及び成人麻しんを合算した年齢別患者報告数は、6か月～11か月にピークがあり、2歳で下がるものの年齢が上がるに従い増加し、10歳以上の報告数が114人(65.9%)と特に多くなっています。(図2) 神奈川県の基幹定点報告では、成人麻しん(15歳以上)は51人で15歳から35歳未満では49人(96%)となっています。

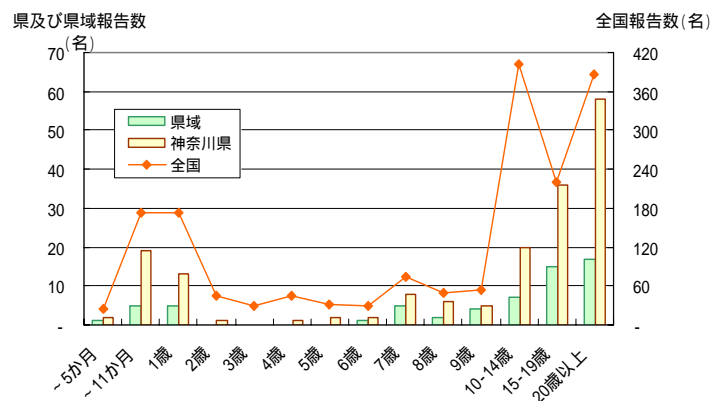


図2 2007年麻しん、成人麻しん年齢別患者報告数(1～22週)

全国及び近隣都県の週別患者報告数（小児科定点、基幹定点報告より）

全国及び近隣都県（神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県）の患者報告数は、全般的に13週(3/26～)から増加し始め全国の麻疹は19週をピークとしてほぼ横ばいで推移しています。近隣都県とも麻疹の報告数が多い、千葉県の19週は56名が報告されています（図3）。成人麻疹は18週から増加の傾向を示しているが20週では全国報告68例中、近隣都県の報告が36例あり、全国の52.9%を占めました。報告数がピークとなっている21週では全国報告82例、近隣都県43例と報告数は増加したものの近隣都県の全国割合は52.5%とわずかに減少しました（図4）

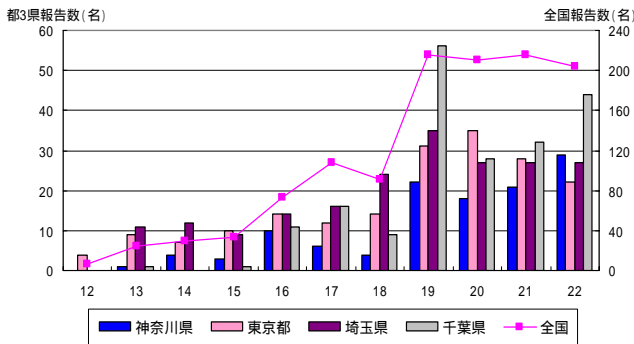


図3 2007年全国及び近隣都県の週別患者報告数推移(麻疹)

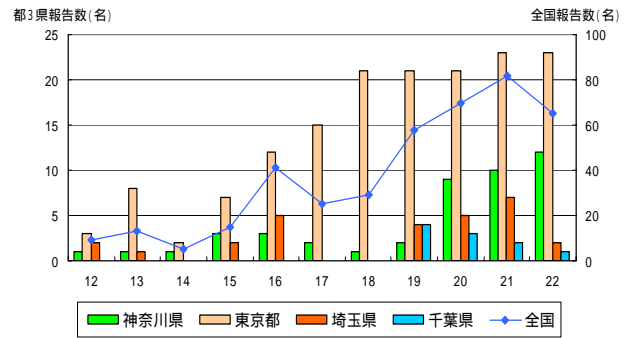


図4 2007年全国及び近隣都県の週別患者報告数推移(成人麻疹)

2 麻疹抗体保有状況および予防接種率

当所で行っている麻疹の抗体保有調査の一部を示しました（表1）。0-1歳では陽性率が約43%から76%であるの比して、2歳になると一部低い陽性率がみられるものの、ほぼ100%の

表1 麻疹抗体保有状況

年齢(歳)	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
	陽性率(%)	陽性率(%)	陽性率(%)	陽性率(%)	陽性率(%)	陽性率(%)	陽性率(%)
0-1	50.0	42.9	46.7	76.2	73.7	61.5	66.7
2-3	100.0	100.0	76.9	100.0	100.0	100.0	100.0
4-5	94.7	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4
6-7	90.0		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
8-9	100.0	88.9	76.9	100.0	100.0	92.9	100.0
10-14	90.0	86.7	96.6	88.5	93.9	93.5	86.7
平均(%)	86.1	80.6	83.1	90.7	92.2	91.2	88.4

(神奈川県感染症より)

表2 麻疹予防接種率

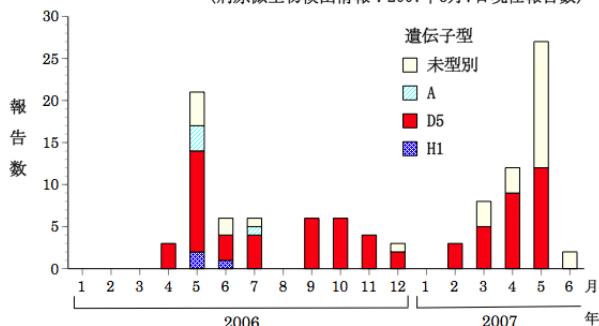
年度	接種率(%)
4	60.3
5	75.3
6	69.2
7	88.1
8	80.5
9	93.0
10	95.2
11	100.4
12	95.8
13	105.8
14	100.9
15	101.2
16	94.5

(神奈川県感染症より)

陽性率となっています。しかし、2-5歳の間に100%の陽性率を示した抗体保有状況も10-14歳では約86~96%前後の値を示し、約15%~5%程度減少しています。

3 麻疹ウイルス分離状況（IDSC資料より；国立感染症情報センター）

図1. 月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、2006年1月～2007年6月
(病原微生物検出情報：2007年6月7日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

2007年2~6月に山形県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、大阪府、兵庫県、島根県、佐賀県、沖縄県から麻疹ウイルスの分離・検出が52件報告されており、このうち、遺伝子型別まで実施された29件ではすべてD5型が検出されています。

2006年においてはD5型を中心にA型、H1型も報告されていました。

(企画情報部 折原直美)

病原体検出

表 1 病原体検出状況(保健所等別) 平成 19 年 2 月

	感染症および食中毒に伴う行政検査並びに依頼検査													病原体定点 1			合計				
	平塚保健所	鎌倉保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	県域外発生関連調査	横須賀市保健所	相模原市保健所	藤沢市保健所	計	小児科		インフルエンザ	眼科	基幹	その他の医療機関
その他の大腸菌 2										2	1			3	1						4
サルモネラ 04群											1			1							1
カンピロバクター・ジェジュニ		1								1				2	2						4
ウエルシュ菌											7			7							7
赤痢菌 (S. flexneri)											1			1							1
A群溶血レンサ球菌															1						1
計		1								3	10			14	4						18
インフルエンザ AH3					3	4								7	12	25					44
インフルエンザ B		1							3					4	3	4					11
アデノ 2															1						1
アデノ 4																1					1
単純ヘルペス 1															1						1
ロ タ															2						2
ノ ロ					22					2	21	3	1	49	10						59
サ ボ															4						4
計		1			25	4			3	2	21	3	1	60	33	30					123
合計		2			25	4			3	5	31	3	1	74	37	30					141

1: 病原体定点の検出数は横須賀市、相模原市、藤沢市も含めた定点の合計を計上した。

2: EHEC(VTEC)・ETEC・EIEC以外の大腸菌(病原性不明なもの)

<検出状況>

- ・ 2月の病原体検出数は合計 140 件、細菌 18 件、ウイルス 123 件であった。
- ・ 感染症および食中毒発生に伴う行政検査等では細菌が 14 件、ウイルスが 60 件検出された。
- ・ 病原体定点等の医療機関からの検査では、細菌が 3 件、ウイルスが 63 件検出された。細菌は小児科定点から、ウイルスは小児科定点およびインフルエンザ定点からの検出であった。
- ・ 保健所管内別の検出状況は表 1 のとおりである。

表 2 病原細菌検出状況(臨床診断別) 平成 19 年 2 月

	感 染 症										食 中 毒	有 症 苦 情	(依 菌 類 者 検 査 検 査)	合 計
	コ	細 菌	腸	パ	腸	A	感	百	淋	マ				
	ラ	性	チ	ラ	管	群	染	日	菌	イ				
	痢	赤	フ	チ	出	溶	性	咳	感	コ				
	ス	痢	ス	フ	血	血	胃		染	プ				
					性	性	腸		症	ラ				
					大	レ				ズ				
					腸	ン				マ				
					菌	サ				肺				
					感	球				炎				
					染	菌								
					症	咽								
						頭								
						炎								
検 査 検 体 数		3				1	64				3	134	1,972	2,177
その他の大腸菌 2							1				2	1		4
サルモネラ 04群												1		1
カンピロバクター・ジェジュニ							2				1	1		4
ウエルシュ菌							7							7
赤痢菌 (<i>S. flexneri</i>)		1												1
A群溶血レンサ球菌						1								1
計		1				1	10				3	3		18

1 : 依頼検査(保菌者検査)は、横須賀市、相模原市、藤沢市を除く。
 海外渡航者数は(内数)として記載
 2 : EHEC(VTEC)・ETEC・EIEC以外の大腸菌(病原性不明なもの)

<検出状況>

- ・ 赤痢菌 (*S. flexneri*) が横須賀市保健所管内で届出患者から 1 件検出された。これは国内散発事例であった。
- ・ ウエルシュ菌が 7 件検出されたが、ノロウイルスを原因とする集団発生事例から同時検出されたものである。
- ・ カンピロバクター・ジェジュニが感染性胃腸炎患者から 2 件、食中毒及び有症苦情事例からそれぞれ 1 件検出された。

表3 病原細菌検出状況(月別) 平成19年2月

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成18年計	1月	2月	平成19年累計
腸管出血性大腸菌(EHEC)		3	4	6	1	3	6	7	1	16	1	49			
毒素原性大腸菌(ETEC)							5	2	2			9			
その他の大腸菌	3	1	3		2		1	1	1	1	11	28	1	4	5
バラチフス A菌															
サルモネラ O4群						1				1		2		1	1
サルモネラ O7群	4				1	1						6			
サルモネラ O8群		1			1							2			
サルモネラ O9群		1							4			5	1		1
腸炎ビブリオ							3					3			
エロモナス・キャビエ															
ブレジオモナス・シグロイデス													1		1
カンピロバクター・ジェジュニ		7	3	1	8	2	8	1	6	2		38	1	4	5
カンピロバクター・コリ					1							1			
黄色ブドウ球菌				1			4				7	12	4		4
ウエルシュ菌			80							2	11	93	1	7	8
セレウス菌											1	1			
赤痢菌 (<i>S. flexneri</i>)														1	
赤痢菌 (<i>S. sonnei</i>)							1	1	1		2	5			
A群溶血レンサ球菌	4	5	3	6	14	2					1	39		1	1
コリネバクテリウム・ウルセランス						1						1			
淋菌						3	2	1				6			
マイコプラズマ・ニューモニエ									1			1			
レジオネラ・ニューモフィラ	1				2	2	9	7	3	2	1	27			
合計	12	18	93	14	30	15	39	20	19	24	35	328	9	18	27

: EHEC(VTEC)・ETEC・EIEC以外の大腸菌(病原性不明なもの)

< 検出状況 >

- ・ 腸管出血性大腸菌は、1月に引き続き2月も検出されなかった。
- ・ カンピロバクター・ジェジュニが、1月に引き続き2月も4件検出された。

表4 ウイルス・リケッチア検出状況(臨床診断名別) 平成19年2月

	ウエストナイル熱	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	風しん	ヘルパンギーナ	麻疹(成人麻疹を除く)	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	成人麻疹	その他	食中毒様	合計
取り扱い検査件数				1		1	61			1			79		1		43	155	342
インフルエンザ AH3													44						44
インフルエンザ B													11						11
アデノ 2						1													1
アデノ 4													1						1
単純ヘルペス 1										1									1
ロタ							2												2
ノロ							32										3	24	59
サポ							4												4
計						1	38			1			56				3	24	123

< 検出状況 >

- ・ 1月に引き続き、2月もノロウイルス感染による集団発生が多発し、ノロウイルスは、感染性胃腸炎から32件、食中毒等から24件検出された。その他3件は他府県の関連調査によるもので推定伝播経路が不明であった。
- ・ 2月もインフルエンザが流行した。集団かぜが5集団あり、うちインフルエンザウイルスAH3型によるものが2集団、インフルエンザウイルスB型によるものが2集団、ウイルス不検出が1集団であった。検出数はインフルエンザウイルスAH3型が44株、インフルエンザウイルスB型が11株であった。
今シーズンはAH3型とB型の同時流行であると考えられる。
- ・ 感染性胃腸炎患者から、ロタウイルスが2件、サポウイルスが4件検出された。

表5 ウイルス・リケッチャ検出状況(月別) 平成19年2月

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成18年計	1月	2月	平成19年累計
インフルエンザ AH1	20	6										45			
インフルエンザ AH3	36	1										173	10	44	54
インフルエンザ B				2	1							3	25	11	36
パラインフルエンザ 1	1											2			
パラインフルエンザ 2										1		1			
R S	1										1	2			
ボリオ 3															
コクサッキー A2															
コクサッキー A4				4	15	5	1					25			
コクサッキー A5						1			2	1		4			
コクサッキー A6															
コクサッキー A9															
コクサッキー A10						1	1					2			
コクサッキー A12															
コクサッキー A14															
コクサッキー A16				1	3	7	8	6	5	2	1	33			
コクサッキー B3								1				1			
コクサッキー B5						1	1		2	1		5			
エコー 3															
エコー 6															
エコー 18					1		3	4				8			
エコー 30						1						1			
エンテロ 71						1		1		1	1	4	1		1
パレコー 1															
ライノ															
ムンプス	1		2	1				3				7			
アデノ 1		1										1			
アデノ 2	1											1		1	1
アデノ 3	3	2	4	3	1	4		1				18	1		1
アデノ 4	1					1						2		1	1
アデノ 5															
アデノ 37												1			
アデノ 40/41					2							2			
アデノ(型未決定)			1							1		2	1		1
単純ヘルペス 1			1	1			1		1	2	1	8	3	1	4
ロ タ		22	9								1	33	1	2	3
小型球形					1							1			
ノ ロ	13	13	36	4					10	248	333	737	86	59	145
サ ボ				1							4	5	2	4	6
デ ン グ								1				1			
未 同 定						1	1	1				3			
柯エンチア ツガムシ									1	2	1	4			
合 計	77	45	53	17	24	23	16	18	21	259	308	1135	130	123	253

< 検出状況 >

- ・ 2月に入り発生動向調査ではインフルエンザの報告数が上昇し、インフルエンザウイルスの検出数も前月を上回った。
- ・ ノロウイルスは、2月は前月の検出数を下回ったが、59件検出された。
- ・ ロタウイルス、サポウイルスが12月から毎月検出されている。
- ・ 単純ヘルペスウイルス1型が昨年後期から検出され続けている。

表6 食品・環境由来の病原細菌検出状況 平成19年2月

(神奈川県衛生研究所検出)

検査検体数	病原細菌検出数及び検査検体数													
	食 品						環 境							
	2月			1-2月累計			2月			1-2月累計				
	食中毒等	収去検査	その他	食中毒等	収去検査	その他	海水	浴槽水等	食中毒等	その他	海水	浴槽水等	食中毒等	その他
検査検体数	60	49	4	79	110	11		6	66			16	111	
サルモネラ 04群		1			2									
サルモネラ 07群			1		4	1								
カンピロバクター・ジェジュニ			2			2								
レジオネラ・ニューモフィラ 6群								1				1		
計		1	3		6	3		1				1		

: 河川水を含む。